2018.5.22

○○中学校　第１学年　　社　会　科　通　信

な　ん　で　や　ね　ん

発行責任者　倉橋　忠

No.12

「ハンムラビ法典」から読み取れること

１　【必ず取り組む課題の解説】

課題①　第42条～第50条を読み、どのような穀物が栽培されていたのか説明しよう。

【解説】大麦を栽培していた。それ以外の穀物は見当たらない。

課題②　第49条～第51条と第60条を読み、栽培されていた農作物を説明しよう。

【解説】大麦(第49条～第51条)、ゴマ(第49条～第51条)、ナツメヤシ(第60条)。

課題③　第195条～第205条を読み、刑罰からどのような身分階級を読み取れるだろうか。読み取れる身分をすべてあげて説明しよう。

【解説】王　→　アウィールム　→　ムシュケーヌム　→　奴隷。

王は第195条～第205条には出てこないが、この法典を定めたのは王だから最高位にいる。アウィールムがアウィールムの目を損なうか骨を折った場合は、目を損なったり骨を折られる応報刑(タリオと言う)で罰せられる。アウィールムがムシュケーヌムの目を損なうか骨を折った場合は銀１マナ(約500グラム)の罰金を支払う(第198条)ことから、アウィールムとムシュケーヌムの間に身分差が読み取れる。アウィールムの間にも身分差がある(第202条)。なお、ムシュケーヌムは奴隷を持つことができる(第219条)。そのようなことから、アウィールムを「エリート市民」(あるいは貴族)、ムシュケーヌムを「自由市民」(あるいは一般市民)と解釈する研究者もいる。

課題④　第118条、第119条と第279条～第282条を読み、奴隷はどのように扱われたのかを説明しよう。

【解説】人としての資格を認められずに、労働させる道具・財産として売買された(第118条，第279条)。男主人の子どもを産む道具で、借金のかたに売ることが出来る財産(第119条)。主人に絶対服従する道具(第282条)。

２　【グループで選択して取り組む課題の解説】

課題⑤　第26条～第37条を読み、兵士になるよう命じられた人は、兵士になることを拒否できたのだろうか。兵士がどのような立場だったか説明しよう。

【解説】兵士になることを拒否すると殺され、家を没収された(第26条)。その代わり、軍に出ている間の財産は保障されていた(第36条，第37条)。

課題⑥　第50条～第53条と第257条～第274条を読み、取引に使われた「財貨」は何か。どのようなものが取引に使われたのか説明しよう。

【解説】銀や大麦、ゴマが「財貨」として使われている(第51条,第53条,第257条～第270条)。「通貨」があったようには読み取れない。職人の労働に対する賃金は「銀」で支払うようになっている(第273条,第274条)。

課題⑦　第117条と第138条～第170条を読み、女性や子どもはどのような扱いをされていたのか説明しよう。

【解説】女性や子どもは売られることがあった(第117条)。たとえ結婚した女性であっても、男子を産めなかった女性は離婚されることがあった(第138条,第139条)。女奴隷の子どもでも男子であれば、主人に認知(自分の子と認めること)されると正妻の子どもと同等に扱われた(第170条)。

課題⑧　第42条～第47条と第257条を読むと、農民にも階級があったことがわかるが、農民の社会が、農地をめぐってどのような関係になっているか説明しよう。

【解説】耕地(農地)の所有者(地主)がいて、耕地は村共同のものではなく、土地を持つ農民と、土地を持たない農民がいる社会になっている(第42条,第43条)。土地を持たない農民には、小作人(作物で地代を返す農民のこと)(第47条)だけでなく、地主に雇われて農業労働者として生活する農民もいたことが読み取れる(第257条)。さらに、牛追いで暮らす者(第258条)も土地を持たない農民であったと考えられる。また、土地は借金の担保(借金を返さなかったら取り上げられる財産のこと)にすることが認められている(第49条)。

課題⑨　第60条～第109条と第218条～第276条を読み、どのような職業があり、何で報酬をもらっていたのか説明しよう。

【解説】園丁師(ナツメヤシ、第60条)、商人と行商人(銀、第104条)、居酒屋(銀・大麦、第109条,第111条)、医師(銀、第221条)、理髪師、大工(銀、第228条)、船頭、農業労働者(大麦、第257条)、牛追い人(大麦、第258条)、賃労働者(銀、第273条)、織物職人・リネン職人・彫刻師・弓矢職人・細工師・大工職人・皮細工師・葦細工師・建築士(銀、第274条)。

課題⑩　第104条、第111条を読み、このような社会で生きるためには、民衆にはどのようなことが必要になるか説明しよう。

【解説】文字の読み書きを学び、自分の商いを記録できる能力が必要。また、商取引の代金や貸し金の利息を計算する技能を身につけておかなければならない。さらに、社会のルールを身につけ、場合によれば、契約書や捺印証書(領収書)の書き方など高度な知識を知っておく必要がある。